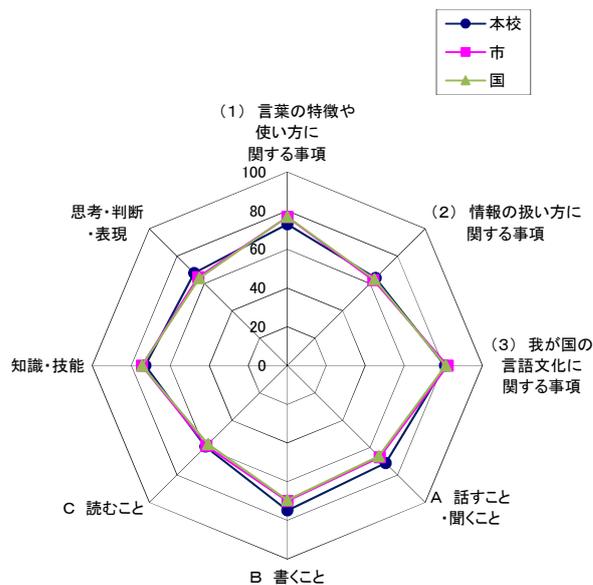


宇都宮市立岡本西小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	73.0	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	64.0	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	80.9	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	71.2	67.0	66.3
	B 書くこと	74.9	70.0	69.5
	C 読むこと	59.3	58.6	57.5
観点	知識・技能	72.8	74.5	74.5
	思考・判断・表現	67.5	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

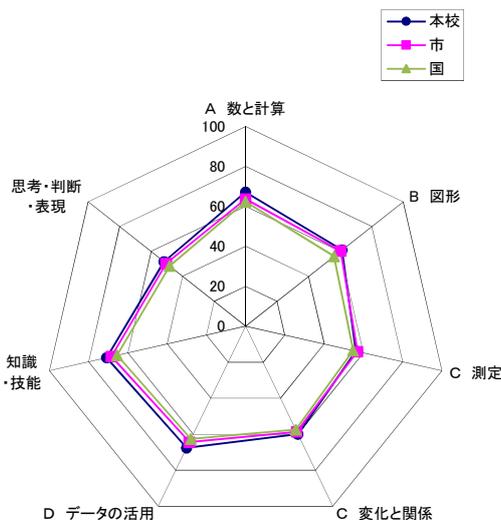
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	領域の平均正答率は73.0%であり、全国平均より3.9ポイント下回っている。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかをみる設問において、どちらも平均正答率が全国平均を下回った。	・新しい漢字を学ぶ際や既習の漢字を復習する際に、熟語などを複数提示し、それぞれの意味や使い方を例文とともに学ぶ時間を増やす。
(2) 情報の扱い方に関する事項	領域の平均正答率は64.0%であり、全国平均より0.9ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる設問で、0.9ポイント上回った。	・情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解させるために、国語はもちろん他教科との関連を図りながら、継続的に指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	領域の平均正答率は80.9%であり、全国平均より0.3ポイント下回っている。 ●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる設問では、平均正答率が80.9%で、0.3ポイント下回った。	・国語辞典を活用して、様々な語句に触れる機会を増やしたり、文章の要点を捉えて、短い言葉で表す指導の充実を図ったりする。
A 話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は71.2%であり、全国平均より4.9ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる設問では、平均正答率が59.6%で、6.3ポイント上回った。	・目的や意図に応じて話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめられるよう、話し手の意図を聞き取ったり、自分の考えを話したりする機会を増やし、話すこと・聞くことへの指導の充実を図る。
B 書くこと	領域の平均正答率は74.9%であり、全国平均より5.4ポイント上回っている。 ○書く内容の中心を明確にし、内容のまとめりで段落をつくらせたり段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる設問では、平均正答率が74.2%で、8.7ポイント上回った。	・目的や意図に応じて、感じたことや考えたことを、字数制限の中で簡潔にまとめたりするなど、条件に合わせて文章を書く活動を設定し、その機会を増やしていくことで更なる定着を図る。
C 読むこと	領域の平均正答率は59.3%であり、全国平均より1.8ポイント上回っている。 ○資料を基に文章をまとめる設問では、平均正答率が64%で、7.7ポイント上回っている。 ●目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなど必要な情報を見付けることができるかどうかをみる設問では、平均正答率は37.1%で、3.7ポイント下回った。	・目的に応じた必要な情報を見付けることができるよう、説明や解説などの文章を比較して読み、わかったことや考えたことを話し合ったり文章にまとめたりする活動を増やす。

宇都宮市立岡本西小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	67.1	63.6	62.3
	B 図形	61.2	60.4	56.2
	C 測定	56.2	56.9	54.8
	C 変化と関係	59.9	58.6	57.5
	D データの活用	67.6	64.4	62.6
観点	知識・技能	70.8	68.3	65.5
	思考・判断・表現	51.8	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

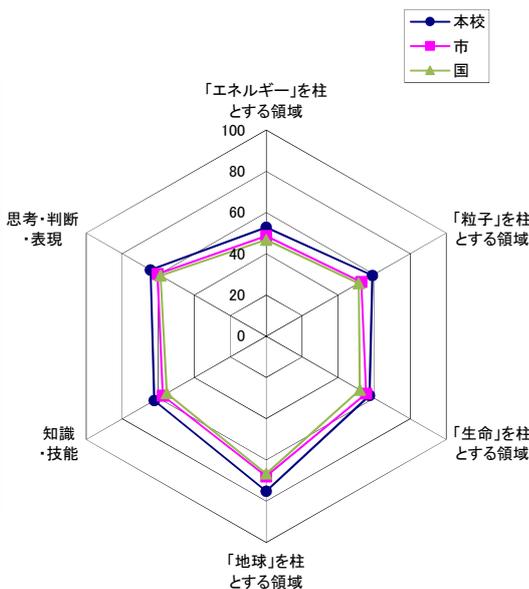
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>領域の平均正答率は67.1%と全国平均を4.8ポイント上回った。</p> <p>○棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題では、平均正答率が83.1%と、全国平均を4.4ポイント上回った。</p> <p>●分数の加法について共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数のいくつかを数や言葉を用いて記述できるかを問う問題では、全国平均を4ポイント上回っているものの、平均正答率は27.0%と低かった。</p>	<p>・分数の加法の計算の仕方を理解するだけでなく、何をもとにして見たときの計算なのか、自分の考え方を言葉や文章で説明する活動を学習の中に設けることで、計算の意味を考える力を高められるような指導の充実を図る。</p>
B 図形	<p>領域の平均正答率は61.2%と全国平均を5ポイント上回った。</p> <p>●基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかを問う問題では、全国平均を4.6ポイント上回ったものの、平均正答率は41.6%と低かった。</p>	<p>・多角形を複数の図形に分割し、既習の公式を用いて説明することに課題が見られたため、自分の考え方を言葉や文章で説明する活動を学習の中に設けるようにする。また、異なる性質をもつ複数の図形を比較し、縦、横、高さを類推できる活用力を高められるような指導の充実を図る。</p>
C 測定	<p>領域の平均正答率は56.2%と全国平均を1.4ポイント上回った。</p> <p>●はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる問題では、平均正答率は59.6%と、全国平均を1.3ポイント下回った。</p>	<p>・1目盛りの大きさを求めることに課題が見られるため、具体物を用いて、目盛りの大きさを捉えることができるようにする。また、日常生活と結び付けながら説明する活動を取り入れ、理解を深められるような指導の充実を図る。</p>
C 変化と関係	<p>領域の平均正答率は59.9%と全国平均を2.4ポイント上回った。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかを問う問題では、平均正答率が85.4%と、全国平均を2.6ポイント上回った。</p> <p>●「10%増量」の意味を解釈し、増量後の量が増量前の量の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題では、全国平均を0.7ポイント上回ったものの、平均正答率は41.6%と低かった。</p>	<p>・割合などの単位量あたりの大きさを求める活動では、何を1としてみるのか、基にする数値は何なのかを明らかにして考えられるようにしていく。</p>
D データの活用	<p>領域の平均正答率は67.6%と全国平均を5ポイント上回った。</p> <p>○簡単な2次元の表から条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる問題では、平均正答率が80.9%と、全国平均を9.3ポイント上回った。</p> <p>●目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題では、全国平均を5ポイント上回ったものの、平均正答率は36.0%と低かった。</p>	<p>・複数のグラフを読み取る活動では、それぞれのグラフが何を表しているのかを丁寧に確認し、読み取れるようにしていく。また、2つのグラフを比較する活動では、それぞれのグラフが何を表すものなのかに注目し、言葉や数値を用いて説明する活動の充実を図る。</p>

宇都宮市立岡本西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	52.8	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	59.0	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	57.3	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	75.1	67.9	66.7
観点	知識・技能	62.2	57.5	55.3
	思考・判断・表現	64.3	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率が52.8%であり、全国平均より6.1ポイント上回っている。 ○「電流がつくる磁力は、何によって変わるか」を問う設問では、平均正答率が86.5%と全国平均を8.5ポイント上回っており、電磁石の強さとコイルの巻き数の関係についてよく理解していることがうかがえる。 ●「電気の回路」についてを問う設問では、平均正答率が46.1%と全国平均を3.2ポイント上回っているが、電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があることに関する理解に課題が見られた。	・理科の重要語句や実験結果についてはよく理解しており、授業や実験に対して意欲的に取り組んでいることがうかがえる。今後も引き続き、目的意識をもって実験に取り組ませ、学習内容をしっかりと身に付けさせたい。 ・電気の回路については、実験を通して「どうすれば電気が通るか」についてだけでなく、「どんな時に電気が通らないか」を考えさせることで、回路が成り立つ条件を正しく理解させていきたい。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率が59.0%であり、全国平均より7.6ポイント上回っている。 ○「水の蒸発」について問う設問では、平均正答率が78.7%と全国平均を14.5ポイント上回っており、温度によって水の状態が変化するという知識を概念的に理解していることがうかがえる。 ●「金属についての知識」を問う設問では、平均正答率が18.0%と全国平均を7.4ポイント上回っているが、身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引き付けられるものがあることに関する知識の定着に課題が見られた。	・今後も実験結果をただ見るだけでなく、具体的な量(水の減少量、時間など)を記録させたり、気づいたことを言葉や図で表現させたりする活動を充実させていきたい。 ・様々な金属製品(クリップ、コイン、アルミホイル、スチール缶、鋼線、鍵など)を実際に使って、グループで「電気を通すか」「磁石につくか」を一つ一つ実験し、分類する活動を行うとともに、「鉄」「銅」「アルミニウム」など、具体的な金属の種類を意識させながら分類することで、それぞれの金属が持つ性質への理解を深めさせたい。
「生命」を柱とする領域	平均正答率が57.3%であり、全国平均より5.3ポイント上回っている。 ●「発芽するために必要な条件」を問う設問では、平均正答率が65.2%と、全国平均を3.2ポイント上回っているが、実験の条件を制御しながら解決するための環境、実験の方法を発想し、表現することに課題が見られた。 ●「種子の発芽の条件」を問う設問では、平均正答率が39.3ポイントと全国平均を9.4ポイント上回っているが、発芽の条件についての差異点や共通点を基に新たな問題を見いだし、適切に表現することに課題が見られた。	・実験を行う際に「条件を一つだけ変える」という条件制御の原則を、しっかりと指導するとともに、児童が実験計画を立てる際に「何を変えるのか」「何を変えないのか」を明確化して書いたり、発表したりする機会を増やしていきたい。 ・実験結果が出た後の考察を大切にしたり、既習の知識を基に仮説的な問いを立てたりする活動を意図的に取り入れ、新たな問題を見いだし、適切な指導を行っていきたい。
「地球」を柱とする領域	平均正答率が75.1%であり、全国平均より8.4ポイント上回っている。 ○「粒の大きさによる水のしみこみ方の違い」を問う設問では、平均正答率が86.5%であり、全国平均より8.7ポイント上回っており、粒の大きさとしみ込む時間の関係についてよく理解していることがうかがえる。 ●「氷がとけてできた水が海に流れることの根拠」を問う設問では、平均正答率が57.3%と全国平均を3.6ポイント下回っており、学習した知識を概念的に理解することに課題が見られた。	・今後も実験を行う前に、児童生徒自身が結果を具体的に予測し、その理由も説明する活動を取り入れることで、仮説設定能力を高めさせたい。また、実験結果と予測を比較し、なぜその結果になったのかを深く考察する機会を意図的に取り入れていきたい。 ・雪解け水が流れる様子の動画や写真を見せたり、既習事項と関連付けて総合的に考えさせたりすることで、実際の自然現象と結び付けることができるようにしたい。

宇都宮市立岡本西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問について
肯定的回答率は82.8%と、県平均を8.8ポイント、全国平均を12.2ポイントと大きく上回っている。年に2回行っている教育相談なども活用しながら、日頃から児童との関係を良好に保ち、悩みなどを相談しやすい環境を作っていくよう引き続き取り組んでいきたい。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問について
肯定的回答率は94.6%と、県平均を7.3ポイント、全国平均を11.3ポイントと大きく上回っている。それぞれの学級で、学級活動の話し合いが活発に行われていることがうかがえる。今後も、児童主体の自発的な活動が推進されるよう支援していきたい。

○「国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてください」という質問について
肯定的回答率は90.4%と、県平均を8.9%、全国平均を14.9ポイントと大きく上回っている。教師が児童に対して学習の課題となるところを伝え、丁寧に指導していくことで、ゆくゆくは児童一人一人が自分で自分の課題を分析し、課題に取り組んでいけるようにしていきたい。

●「新聞を読んでいますか」という質問について
肯定的回答率は18.3%で、県や全国の平均よりもわずかに下回っている。8割の児童が普段新聞を読む機会を得ていないことが分かる。国語を始めとして様々な教科において新聞を活用する活動を取り入れたり、司書教諭と連携して図書室の子ども新聞を積極的に紹介するなどして、新聞への興味・関心を高めていく。

●「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか」という質問について
肯定的回答率は68.8%で、県平均を3.5ポイント、全国平均を0.1ポイントと下回っている。ニュースなどで取り上げられた事象や日常生活の中で、理科と関連付けられる事柄を授業などでも取り上げ、児童の興味関心を高めていきたい。

宇都宮市立岡本西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
豊かに表現する児童の育成	児童が思考し、自分の考えを書いたり説明したりする力を育てるための指導を行っている。そのために今年度は「言葉」に着目し、言語活動をするための基盤となる力を育成するための指導の工夫の研究に取り組んでいる。 ・言語活動の工夫 ・発問の工夫 ・文章構成や言葉遣い等の文法の指導 ・語彙力の育成するための指導 ・読書活動の推進	○「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」とについて 肯定的回答率が72.0%で全国平均を上回った。また経年変化を見ると、昨年度から2.1ポイント向上した。 ○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」とについて 肯定的回答率が91.4%で全国平均を上回った。しかし経年変化を見ると、昨年度から2.2ポイント低下した。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
各教科及び質問紙の調査結果から、以下のような課題が見られた。 ①必要な情報やキーワードを見付けながら内容を読み取ること。 ②他者の考えを理解したり工夫を捉えたりすること。 ③既習内容の知識を新たな課題解決に活用すること。 これらのことから、「情報を自分なりに意味づけ、他者と関わりながら、新たな状況で活用する力」に課題がある。	探究的な学びを軸とした、思考のサイクルの確立	①「問い中心」の授業設計 ・子供たちが「知りたい！」「解決したい！」と思えるような、身近な問題や不思議な現象を提示し、「単元を貫く問い」を立てる。 ・「問い」を解決するために「何を知る必要があるか？」を子供たち自身に考えさせ、学習計画（調べることリスト）を作成させる。 ②「思考ツール」を活用した対話的な学びの構造化 ・学年や教科を問わず思考ツールを活用する文化を作る。これにより、考えを整理したり、比較したりする「型」を習得させる。 ・個々が思考ツールでまとめた考えを持ち寄り、比較・検討する。その際、「○○さんの図を見ると、こういう工夫があるね」「自分にはなかった視点だ」といった発見を促す。 ③「振り返り」の習慣化による学びの般化 ・授業で作成した思考ツールや振り返りをノートやICTに蓄積し、過去の学びを参照する習慣を身につける。